

1 平和祈念碑



基本情報

所 在：水戸教公園
住 所：新潟県新潟市中央区雲雀町18
(JR新潟駅より 新潟交通バス「入舟営業所」下車 徒歩5分)
連絡先：新潟市 総務部 総務課 総務係 025-228-1000 (代表)
建 立 者：新潟市
建 立 年：平成10年8月10日

碑 文

新潟市においては、第二次世界大戦末期の昭和二十年
新潟港を中心として、艦載機による銃爆撃や触雷により
連絡船「鉄工丸」、軍用船「宇品丸」、佐渡連絡船「おけさ丸」
などの多数の船舶や工場民家などに大きな被害を受け
勤労動員の生徒をはじめ、工具・乗客・船員など
多くの尊い生命や貴重な財産が失われました。
さらに、新潟市出身の軍人軍属並びに市民の多くが
ひたすら祖国の安泰と家族の幸せを念じつつ
戦争の犠牲となり尊い命を亡くされました。
また当時、市内の捕虜収容所に収容され
あるいは強制連行されて来ていた外国の人々の多くも
異国である新潟の地で亡くなっております。
あれから五十年余りが経過し、新潟市は今
市民のたゆみない熱意と粘り強さによって
中核市として目覚ましい発展を続けております。
しかし、私たちは、今日の発展が
多くの尊い犠牲の上に築かれていることを忘れず
戦争の悲惨さと平和の尊さを
後世に語り継いでいかなければなりません。
市域で最も激しい戦禍にあった
新潟港を望む水戸教公園の丘に、平和の祈念碑を建立し
戦争の犠牲となられた方々のご冥福をお祈りするとともに
世界の恒久平和を願うものであります。

平成十年八月十日
新潟市長 長谷川 義明

2 平和祈念碑献花式



※写真提供 新潟市

開催概要 (平成24年度)

歳 事 名：平和祈念碑献花式
会 場：水戸教公園 平和祈念碑前
(JR新潟駅より 新潟交通バス「入舟営業所」下車 徒歩5分)
日 時：平成24年8月10日(金) ※例年8月10日開催
参列者数：約100人
連絡先：新潟市 総務部 総務課 総務係 025-228-1000 (代表)

式 次 第 (平成24年度)

1. 開 会
2. 黙 祷
3. 式 辞：新潟市長
4. 献 花
5. 閉 会

式 辞 (平成24年度)

皆さま、本日は暑い中、平和祈念碑献花式にお集まりいただき、誠にありがとうございます。
67年前の今日、新潟港を中心に本市で最も激しい空襲がありました。
新潟市は先の戦争において、銃爆撃や機雷により、船舶をはじめ工場や民家が被害を受け、
多くの市民や外国の方が犠牲になりました。
この平和祈念碑は、それらの戦災の歴史を後世に伝え、恒久平和を願うシンボルとして、平
成10年8月10日、ここ水戸教公園に建立され、14年の歳月が経過いたしました。
地元自治会の皆さまにおかれましては、建立以来、献花式へのご参加、公園の清掃など、多
大なご協力をいただいております。この場を借りて感謝を申し上げます。
この碑にもありますように、戦争の悲惨さ、平和の尊さを後世に語り継ぎ、世界の恒久平和
を今後も願っていきたくと考えております。
新潟市は、核兵器の廃絶と世界の恒久平和を願い、また日本海が「平和の海」になることを
強く望み、平成17年10月10日、「新潟市非核平和都市宣言」を行いました。
また、平成18年度に日本非核宣言自治体協議会、平成20年度に平和市長会議に加盟し、
昨年は「北東アジア非核兵器地帯化を支持する」声明に対する賛同を行いました。
これらの取り組みを通じ、北東アジアをはじめ、広く世界への平和の橋渡しになればと思っ
ております。
本日は、誠にありがとうございました。

平成24年8月10日
新潟市長 篠田 昭

3 長岡市戦災殉難者慰霊塔



基本情報

所 在：平潟公園
住 所：新潟県長岡市表町1-6-1
(JR長岡駅 徒歩10分)
連絡先：平潟神社 0258-32-1032
建 立 者：遺族及び市民有志
建 立 年：昭和33年8月1日

碑 文

【表】	【左側面】	【右側面】
長岡市戦災殉難者 慰霊塔	建設趣意 昭和二十年当時の長岡市は戸数一万三千 人口六万七千余でありましたそれが八月一日の戦災で わずか二時間ばかりのうちに 八割二分に当る家を焼失し 市長の殉職をはじめ千三百余の市民がその犠牲となったのであります それから十三年 その惨状は昨日のことのように 今なお市民の記憶から離れないのであります この塔はその殉難の霊を慰めるとともに このような不幸を再び繰り返さないよう願いをこめて 一般からの寄付金及び県と市の補助金によって これを建設したものであります 昭和三十三年八月一日 長岡市戦災 殉難者慰霊塔 建設委員会	この塔は 昭和三十三年平潟神社境内地に建設され 長岡市戦災殉難者遺族会により管理されてきた その後 歳月の経過とともに老朽化が進んだため 戦災五十周年を機に市民の浄財も得て長岡市が現在地に移転修復したものである 平成七年八月一日 長岡市

解 説 文

長岡市戦災犠牲者慰霊塔

昭和二十年（一九四五）八月一日の夜、長岡市は空襲を受けた。
大量の焼夷弾が投下され、旧市街地の約八割が焼失、千四百余名の尊い命が奪われた。なかでも平潟神社境内では多数の人びとが犠牲となった。
その惨状は市民の胸奥から消えず、有志たちが發起して 昭和三十三年、平潟神社境内地に慰霊塔を建立した。

その後、歳月の経過とともに老朽化が進んだため、戦災五十周年にあたる平成七年 市民の浄財も得て長岡市がここに移転修復した。
塔内には鎮魂と平和の願いをこめ、犠牲者の名簿が収められている

長岡市教育委員会

The Memorial Tower for Victims
of the War Disaster on August 1, 1945

4 長岡市戦災殉難者慰霊祭



開催概要（平成24年度）

歳 事 名：長岡市戦災殉難者慰霊祭
会 場：平潟公園 長岡市戦災殉難者慰霊塔前
(JR長岡駅 徒歩10分)
日 時：平成24年8月1日（水） ※例年8月1日開催
参列者数：約120人
連絡先：平潟神社 0258-32-1032

式 次 第（平成24年度）

- | | |
|-----------------------|---|
| 1. 開 式 の 辞：平潟神社責任役員総代 | 7. 玉 串 奉 奠：平潟神社宮司／平潟神社責任役員総代／遺族会長代理／長岡市長／長岡市議会議長／長岡商工会議所会頭／参列者 順次 |
| 2. 修 祓 | 8. 撤 饌 |
| 3. 降 神 の 儀 | 9. 昇 神 の 儀 |
| 4. 献 饌 | 10. 挨拶：長岡市議会議長／遺族会長代理 |
| 5. 祭 詞：斎主 平潟神社宮司 | 11. 閉 式 の 辞 |
| 6. 祭 文：長岡市長 | 12. 御 神 酒 |

祭 文（平成24年度）

祭 文

本日ここに、戦災殉難者慰霊祭が厳かに執り行われるにあたり、長岡空襲で亡くなられた方々の御霊に謹んで哀悼の意を捧げます。

あの忌まわしい日から六十七年、今年も長岡市民が決して忘れることのできない八月一日を迎えました。長岡空襲は、千四百八十二人の尊い生命を奪っただけでなく、肉親を亡くし、家を焼かれた人々に深い悲しみの傷あとを残しました。

今日の長岡市の復興と繁栄は、戦災殉難者の方々の尊い犠牲の上に築かれたものであり、私たち長岡市民はこのことを決して忘れてはなりません。

しかしながら、歳月が流れ、ともすればあの悪夢のような長岡空襲は、遠い過去の出来事として忘れ去られかねません。

ゆえに、私たち長岡市民は、はからずも空襲で犠牲となった方々の思いを胸に、この地で起こった悲しい出来事を次の世代に語り継ぐ責務を負っていることを強く感じます。

本日ここに、「戦災殉難者慰霊塔」を前に、長岡市及び長岡市民を代表して、世界の恒久平和の実現に向けて粘り強く努力していくことを全ての空襲犠牲者の御霊にあらためてお誓いいたします。

終わりに、戦災で亡くなられた多くの方々の御霊が安らかなることを心からご祈念いたしますとともに、御遺族をはじめ、長岡市民を見守ってくださるよう心からお願い申し上げまして、ごあいさついたします。

平成二十四年八月一日
長岡市長 森 民夫

5 戦災殉難者之墓



基本情報

所 在：昌福寺
住 所：新潟県長岡市四郎丸4-6-21
(JR長岡駅 徒歩9分)
連絡先：昌福寺 0258-32-4449
建 立 者：遺族及び市民有志
建 立 年：昭和22年9月

碑 文

【表】

戦災殉難者之墓

【裏】

昭和二十年八月一日當市戦災
殉難者市長他千四百四十名
茲ニ有志相計リ全市民ノ浄財ヲ以テ永ク菩提ヲ弔フ

昭和二十二年九月建立

解 説 文

戦災殉難者の墓

昭和二十年（一九四五）八月一日夜
長岡市はアメリカのB29爆撃機による
大空襲をうけた。

一夜にして旧市街地の約八割が焦土
となり、千四百余名の人びとが尊い命
を奪われた。

このうち、身元が確認できない犠牲
者の遺体は、無縁仏として合同で火葬
に付され、ここ昌福寺の本堂前に葬ら
れた。

昭和二十二年九月、市民の浄財を得
て、殉難者の墓が建てられた。

長岡市教育委員会

6 長岡市戦災殉難者墓前法要



開催概要（平成24年度）

歳 事 名：長岡市戦災殉難者墓前法要
会 場：昌福寺 戦災殉難者之墓前
(JR長岡駅 徒歩9分)
日 時：平成24年8月1日（水） ※例年8月1日開催
参列者数：約100人
連絡先：昌福寺 0258-32-4449

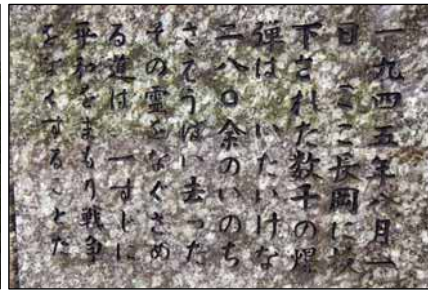
式 次 第（平成24年度）

1. 読 経
2. 焼 香

式 辞（平成24年度）

なし

7 平和像



基本情報

所 在：平和の森公園
住 所：新潟県長岡市本町3
(JR長岡駅 徒歩15分)
連絡先：新潟県教職員組合 025-281-8141
建 立 者：新潟県教職員組合
建 立 年：昭和26年11月3日

碑 文

【台座 表】

平和像
一九四五年八月一
日 ここ長岡に投
下された数千の爆
弾は いたけな
二八〇余のいのち
さえうばい去った
その霊をなぐさめ
る道は 一すじに
平和をまもり戦争
をなくすることだ

【台座 裏】

一九五一年一月三日
建 設 新潟県教職員組合
群像製作 廣井吉之助
碑面書 齋藤迪信

8 非核平和都市宣言市民の集い《平和の誓い・平和祈願祭》



開催概要 (平成24年度)

歳 事 名：非核平和都市宣言市民の集い《平和の誓い・平和祈願祭》 ※一般戦災死没者を含む
会 場：平和の森公園
(JR長岡駅 徒歩15分)
日 時：平成24年8月1日(水) ※例年8月1日開催
参列者数：約500人
連絡先：長岡市 総務部 庶務課 0258-39-2203 (直通)

式 次 第 (平成24年度)

1. 開 会
2. 黙 と う：～非核平和・悠久の鐘～
3. 宣 言 文 朗 読：平和のための長岡行動実行委員会委員長
4. 放 鳩
5. 主催者あいさつ：長岡市長
6. 平 和 像 の 由 来：新潟県教職員組合本部執行委員長
7. 献 花：長岡市長／長岡市議会議長／新潟県教職員組合長岡支部執行委員長
／越後ながおか農業協同組合代表理事理事長
8. 長岡空襲のお話
9. 折 り 鶴 の 依 託：～平和の祈りを広島へ～
10. 平 和 の 誓 い：平成24年度広島派遣中学生代表
11. 閉 会

挨拶 (平成24年度)

長岡市民にとって永遠に忘れることのできない八月一日を迎えました。
今年もまた大勢の皆様の前参加をいただき、「非核平和都市宣言市民の集い」を開催できますことを心から感謝申し上げます。
六十七年前の今日、私たちのまちは悪夢のような大空襲を受け、学童二百八十余名を含む千四百八十二人の尊い命が奪われました。市街地の8割は焼け野原となり、約一万二千戸の家屋が焼失しました。
長岡市は、この悲惨な歴史から目をそらすことなく、平和の灯を広げていくため、昭和五十九年八月一日に県内で初めて「非核平和都市宣言」を行いました。そして、これまで「広島平和記念式典」への中学生の派遣や、「平和市長会議」への参画など恒久平和の実現を目指し、市民の皆様とともに活動を続けています。
去る七月一日には、「長岡空襲殉難者追慕の集い」を長岡戦災資料館において開催し、長岡空襲で犠牲になった二百八十三人の遺影の前に、亡くなられた方々を偲ぶとともに、戦争の悲惨さを語り継ぎました。この長岡戦災資料館は、実際に空襲に遭われた方々をはじめとした大勢の市民ボランティアの皆様との協働により、知恵とアイデアを絞って手作りして企画・運営されており、戦後世代の方々も多く来館されています。
また、本年三月にはハワイ・ホノルル市と姉妹都市を締結しました。今後も戦災を経験した都市同士で交流を続け、平和のために協力していききたいと思います。
空襲から六十七年を経過し、悲惨な記憶が薄れつつある今だからこそ、その記憶を後世に語り継ぎ、平和の尊さを伝える取り組みを、これまで以上に積極的に展開してまいります。
市民の集いの開催にあたり、空襲で亡くなられた方々の御冥福を心からお祈りいたしますとともに、世界の恒久平和の実現に向けて、市民の皆様とともにさらに粘り強い努力を続けていくことを誓い、私のごあいさつといたします。

平成二十四年八月一日
長岡市長 森 民夫

9 鎮魂たむけの花



開催概要（平成24年度）

歳事名：鎮魂たむけの花

会場：アオーレ長岡 西棟1階ホワイエ
(JR長岡駅 徒歩3分)

日時：平成24年8月1日（水）～3日（金） ※例年8月1日～3日開催

参列者数：1,240人

連絡先：長岡市 総務部 庶務課 0258-39-2203（直通）

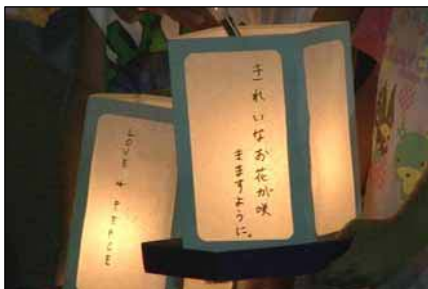
式次第（平成24年度）

なし

概要

長岡まつりの起源となる長岡の歴史について市民に発信し、長岡空襲で亡くなられた方々への慰霊の気持ちを表すため、毎年8月1日から3日間、市民が花を手向ける場所を設置し、献花を行っています。

10 柿川灯籠流し ～平和への誓い～



開催概要 (平成24年度)

歳事名：柿川灯籠流し ～平和への誓い～

会場：柿川（一之橋から追廻橋の周辺）長岡市旭町2丁目、南町1丁目、柏町2丁目
（JR長岡駅 徒歩10分）

日時：平成24年8月1日（水） ※例年8月1日開催

参列者数：約2,000人

連絡先：長岡青年会議所 0258-34-0069

式次第 (平成24年度)

1. 灯籠販売開始（アオーレ長岡、灯籠流し会場）
2. アオーレ及びフェニックスビジョンにて灯籠流しVTR放映
3. セレモニー開始、長岡空襲歴史VTR投影
4. 黙祷、理事長挨拶、市長挨拶、戦災殉難者遺族会代表挨拶
5. 「シンボル灯籠」献灯
6. 柿川灯籠流し開始
7. 柿川灯籠流し終了、片付け開始

概要

（社）長岡青年会議所は、長岡空襲と戦後復興への道のりを伝え、戦争の悲惨さ、平和の尊さと大切さ、戦災殉難者に対する慰霊の想いと平和への誓いを持っていただくことを目的に、第29回柿川灯籠流し～平和への誓い～を行います。

出典：長岡青年会議所ホームページより

11 慰霊の花火（白菊）



※写真提供 長岡市

開催概要（平成24年度）

歳事名：慰霊の花火（白菊）

会場：信濃川河川敷

日時：平成24年8月1日（水） ※例年8月1日開催

参列者数：——

連絡先：長岡まつり協議会事務局 0258-39-2221

式次第（平成24年度）

なし

概要

67年前の長岡空襲の始まった時刻（8月1日午後10時30分）にあわせて慰霊の花火を打ち上げます。

空襲で亡くなられた方々への慰霊、復興に尽力した先人への感謝、恒久平和への願いを込めて、白一色の尺玉3発を打ち上げるとともに、市内寺院の協力を得て同時刻に慰霊の鐘を鳴らします。皆様からも、是非この趣旨をご理解いただき、慰霊の花火打上げに合わせお祈りをいただければ幸いです。

長岡まつり協議会事務局

出典：長岡まつりホームページより

12 柿川戦災殉難地



基本情報

所 在：柳原公園
住 所：新潟県長岡市柳原町2
(JR長岡駅 徒歩20分)
連絡先：長岡市 総務部 庶務課 0258-39-2203 (直通)
建 立 者：長岡市、長岡市教育委員会
建 立 年：平成7年7月31日

碑 文

柿川戦災殉難地

清き柿川の辺り柳原町神明社境内で
昭和二十年八月一日夜太平洋戦争に
於て此の地に空爆死された犠牲者の
冥福を祈り命日五十回忌を期に哀悼
の意を捧げる

当日 長岡市内 千四百七名
周辺住民 五十四名
柳原神明社
境内中で 百五十三名

荒屋敷	一	本町通	六	神田学区	四
坂下町	四	表町通	十一	四郎丸学区	一
柳原町	三十三	千手学区	五	市外	九
船江町	四十	中島学区	四	県外東京	十七
上田町	十一	坂ノ上学区	三	滋賀県	一
渡里町	二	川崎学区	一	計	百五十二名

平成七年七月三十一日

長 岡 市
長岡教育委員会

13 模擬原子爆弾投下地点跡地の碑



基本情報

所在地：永代橋付近土手
 住所：新潟県長岡市左近
 （JR長岡駅より 越後交通「三和町」下車 徒歩8分、車10分）
 連絡先：長岡戦災資料館 0258-36-3269
 建立者：模擬原子爆弾投下地点の碑建立委員会
 建立年：平成17年7月20日

碑文

模擬原子爆弾投下地点跡地の碑

昭和二十年（一九四五）七月二十日、午前八時十三分、米軍機B29が単機で飛来し、大型爆弾一個を投下しました。爆発による被害は、死者四名、負傷者五名、住宅全壊二戸のほか左近地区全戸が被害を受けました。これは、原子爆弾の投下訓練として行われたもので、同年八月九日、長崎に落とされた原子爆弾とほぼ同じ型のものでした。
 被災六十周年にあたり市民の芳志によりこの碑を建てるものです。

平成十七年（二〇〇五）七月二十日
 左近町有志一同
 模擬原子爆弾投下地点の碑建立委員会

模擬原子爆弾の図

[型式] パンプキン（10,000ポンド軽筒爆弾）
 [大きさ] 1.5m×3.5m
 [重量] 4.5t（TNT火薬 約2.5t）

資料提供 星 貴

14 母子像「懐い」



基本情報

所 在 : 長岡戦災資料館
住 所 : 新潟県長岡市城内町2-6-17 森山ビル
(JR長岡駅 徒歩2分)
連 絡 先 : 長岡戦災資料館 0258-36-3269
建 立 者 : 長岡空襲60周年 母子像建立実行委員会
建 立 年 : 平成17年8月1日

碑 文

【表】

懐い

制作 堀田 正

【左側面】

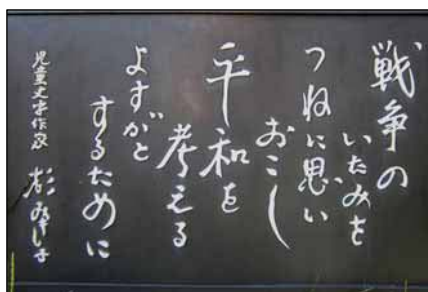
2005年8月1日
長岡空襲60周年母子像
建立実行委員会

経 緯

長岡空襲60周年を迎え、新潟県内唯一の大規模戦災都市として、空襲の惨禍を語り伝えるとともに、亡くなられた方々の御霊を慰め、恒久の平和を希求する思いを伝えようと、市民の有志が募金活動を行い、平成17年に建立したものです。

この母子像には、愛児や家族への想い、感謝の念、恒久平和の願いなどいろいろな想いが込められています。

15 直江津空襲・黒井被爆の地碑



※写真提供 関川幹雄

基本情報

所在地：黒井公園地内
住所：新潟県上越市黒井
(JR黒井駅 徒歩10分)
連絡先：個人であり記載せず
建立者：直江津空襲の標柱をつくる会
建立年：平成7年5月5日

碑文

【表】

一九四五年五月五日
直江津空襲・黒井被爆の地

【表・下部】

戦争の
いたみを
つねに思い
おこし
平和を
考える
よすがと
するために

児童文学作家 杉みき子

【裏】

直江津空襲の標柱をつくる会
一九九一年五月五日建てる
清水雲梯力口書